

駒澤大学4-0早稲田大学

「戦う姿勢、勝利への強い意欲」 がもたらした快勝

試合終了後、応援席に勝利報告をするイレブン
(撮影:近藤慎太郎)

10月17日 13:50 古河市立古河サッカー場

駒大 **4**⁽²⁻⁰⁾ **0** 早大
(2位) (9位)

得点者 (アシスト)

[駒]20分:湯澤 [駒]76分:酒井(林堂)
[駒]32分:OG
[駒]55分:碓井

KOMAZAWA

GK①岡 大生(4)
DF②酒井隆介(4)
DF④林堂 真(3)
DF③亀井秀将(4)
DF②砂川太志(3)
MF⑥金 正也(4)
MF⑭碓井鉄平(1)
(82分 MF⑬佐光 塁(4))
MF⑦金久保彩(4)
(87分 FW⑩馬込 司(4))
MF⑪湯澤洋介(2)
FW⑨棗佑喜(4)
FW⑫山本大貴(1)
(77分 DF⑯濱田 宙(3))

SUB

GK⑫井指隆範(4)
DF⑤山崎紘吉(3)
MF⑧奥村 情(2)
FW⑩肝付将臣(3)

MANAGER

秋田浩一

WASEDA

GK①菅野一弘(4)
DF②野田明弘(4)
DF③小川 諒(4)
DF④畑尾大翔(2)
DF⑫菅井順平(2)
(64分 DF⑩渡部雄史(3))
MF⑥山中 真(3)
MF⑦幸田一光(4)
(86分 MF⑨島田 謙(2))
MF⑧奥井 諒(3)
MF⑬柿沼貴宏(3)
FW⑯富山貴光(2)
FW⑰白井 豪(2)
(81分 FW⑭松井亮太(3))

SUB

GK⑯赤堀勇太(3)
DF③山地 翔(2)
MF⑰寺島尚彦(4)
FW⑪小井土 翔(3)

MANAGER

古賀健児

[シュート]121:9 [GK]12:9 [GK]6:4 [直接FK]17:22
[間接FK]2:2 [OS]2:2 [主審]塚越由貴 [観衆]約220人

警告(C)/退場(S)

[駒]金久保 彩(C)、湯澤洋介(C)、碓井鉄平(C)、佐光 塁(C)

気持ちを全面に出した勝利

試合後のインタビューで勝因は何かと尋ねると「戦う姿勢とか意欲があったからじゃないか、メンタル面が一番強い」。秋田浩一監督は満足そうな表情でこう答えた。勝利した一番の決め手は、このチームらしいともいえる気持ちにあった。

序盤から主導権を握ったのは、ここまで3連勝と波に乗っている駒大だった。前からの早いプレッシャーがよく効いて、相手に自由なスペースを一切与えない。その為、相手はパスコースを遮断されロングボールを蹴らざるを得ない状況に陥っていく。こうなると高さで勝る駒大にリズムが生まれ、選手の動きもキレが増した。

すると20分、試合は動く。左サイドでパスを受けた湯澤洋介(矢板中央高)がドリブルで中央に切れ込むとそのまま迷いなく右足を振り抜く。放ったシュートはGKの手をすり抜け、左隅に吸い込まれ見事先制点となった。このゴールはまさに湯澤の積極性が生んだゴールそのものだった。得点後は相手の早いパス回し翻弄され、ポスト直撃のシュートを打たれるなど運が味方した場面もあっ

が、「亀井が戻ってきて安定した」と金 正也(神戸科学技術高)も語ったが、怪我から戻ってきた亀井秀将(ベガルタ仙台Y)がいるDFラインは闘争心がプラスされ、気持を全面に出した守備で相手の攻撃を何度も寸断して見せた。守備にリズムが出ると乗ってくるのが駒大だ。32分にはスピードを生かして棗佑喜(丸岡高)が縦に仕掛けクロスを送ると、これを相手DFがクリアミス。これがラッキーなオウンゴールとなって思わぬ形から追加点が入り前半を折り返した。

後半は開始5分に碓井鉄平(山梨学院大附高)が相手DFのもたついた間を狙い決定的ともいえる3点目を奪って見せ、相手に更に精神的圧力をかける。この得点ですでに3点の差をつけた駒大は、精神的にもプレーの面でもゆとりが生まれた様だった。さすがに70分すぎあたりからペースダウンしたが76分にCKの混戦から酒井隆介(名古屋Y)が4点目を決めて事実上試合は決着した。14分で強固な赤い壁を崩すだけのエネルギーはもはや早大には残っておらず東京から離れた遠い古河の地で、駒大はしっかりと勝ち点3を手に入れた。(田中幸生)